

1 学校教育目標 『ふるさとを愛し、ともに学び、ともに生きていく東よっ子の育成』 - 「元気」と「笑顔」あふれる学校 -	2 本年度の重点目標 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 《学校経営の重点》 道徳教育の推進 学びの構えづくり 特別支援教育の充実 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 《教育活動の重点》 児童の道徳性、自己肯定感の醸成 基礎的・基本的な学習内容の定着 支援が必要な児童への支援方法の確立 </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 《市民性育》 ふるさとへの愛着と誇りの醸成 </td> </tr> </table>	《学校経営の重点》 道徳教育の推進 学びの構えづくり 特別支援教育の充実	《教育活動の重点》 児童の道徳性、自己肯定感の醸成 基礎的・基本的な学習内容の定着 支援が必要な児童への支援方法の確立	《市民性育》 ふるさとへの愛着と誇りの醸成
《学校経営の重点》 道徳教育の推進 学びの構えづくり 特別支援教育の充実	《教育活動の重点》 児童の道徳性、自己肯定感の醸成 基礎的・基本的な学習内容の定着 支援が必要な児童への支援方法の確立	《市民性育》 ふるさとへの愛着と誇りの醸成		

3 目標・評価						
①						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	
学校経営	○情報発信	・学校HPによる教育目標、学校経営の基本方針、キャッチフレーズ等の周知 ・よっ子だより、よっ子通信等による学校情報の発信 ・学校からのお便り類のHP掲載 ・学校掲示板による情報発信	・教職員・保護者・児童の周知率を8割以上とする。 ・ホームページを毎月1回以上更新し、学校情報を発信する。 ・毎月1回以上、学校掲示板の情報更新を行う。	・学校から発行する文書の中に学校目標を入れ、その内容が理解できるように適宜説明をしていく。 ・PTA総会の折に学校説明会を開催し、学校の経営方針をアピールする。 ・学校掲示板への掲示物を工夫した内容にしていく。	情報主幹	
学校経営	○教職員の資質向上	・わかる授業の創造(共通事項の確認) ・三部会の充実 ・学年経営の充実(転入職員が多いため、統一事項の確認を徹底する。)	・学年ごとに研究授業を実施する。 ・部会ごとの提案の達成及び達成感を85%以上とする。 ・学年経営案の達成及び達成感を90%以上とする。	・各教科等の学習過程に「よっ子タイム」を位置づけたり、他教科との関連を意識したりする。 ・部会長を中心とし、各学年の部員が確実に部会決定事項の伝達と推進を行う。 ・学年主任会(年8回)において、各学年の進捗状況を情報交換しながら、学年経営の充実を図る。	研究主任・三部長 学年主任	
学校経営	○危機管理体制	・危機管理体制の整備	・避難訓練(3回)の意図に沿って、充実を目指す。 ・連絡網と緊急メールを一本化し、確実な連絡を行う。 ・緊急時を想定した、児童の保護者引渡し訓練を計画する。	・外部との連携を図り、より実践的な訓練を目指す。 ・3回の避難訓練時の対応について共通理解を深める。 ・緊急対応の流れ図を作成し、掲示する。 ・5月を登録強化月間とし、繰り返し保護者へ働きかけ、メール登録件数100%とする。 ・緊急時児童引渡し訓練を実施し、危機管理意識の高揚を図る。	安全部 担任	
学校経営	●業務改善	・チームによる教育活動の推進 ・時間外勤務の縮減	・学校行事等には担当者を副数名配置し、個人負担の軽減を図る。 ・役割分担を明確にし、協働体制を整えていく。 ・時間外勤務の時間を前年度比2割減とする。 ・スクラップアンドビルドの徹底化。	・学校行事の目標や実施方法を見直し、効率化を図っていく。 ・指導部会で事前審議を行い、無理無駄を徹底して削っていく。	三部長 学年主任	
②						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちや高まる教育活動の推進	・授業改善に向け、全職員が授業公開、授業研究会を1回以上行う。	・校内研究の年間計画に全員授業公開を位置づけ、「よっ子タイム」を意識した授業研究を計画的に実施する。	知の部	
教育活動	●学力の向上	・基礎基本の定着 ・家庭学習の充実 ・補充指導の充実	・すくすくタイムの問題等を活用し、基礎基本の定着を図る。 ・学習習慣を身に付けさせる。 (国語の読み取る力の向上のため、読書の推進を図る。) ・家庭学習の充実を図るための啓発を進める。 ・つまづきの程度に応じて補充指導を実施する。	・図書館での年間貸し出し目標を設定する。(1・2年…150冊、3・4年…100冊、5・6年…80冊) ・「学習のやくそく」を随時振り返らせ、85%の児童に身に付けさせる。 ・家庭学習が充実するように、「家庭での5つの約束」を、PTA総会、学級懇談会、学級通信等で家庭への啓発を繰り返し行う。 ・小中で連携を図り、「家学・家読アンケート」(年間5回)を実施し、95%を回収する。また、家庭学習の学年目標時間達成率80%をめざす。 ・指導法改善担当や学年を中心に昼休みや放課後の補充指導を週1回程度行う。 ・土曜日授業の機会を捉えて、地域人材の協力をいただき、算数の学力向上のためのにあてる。	知の部 学力向上	
教育活動	○市民性を育むための、教育活動の展開	・地域の物的・人的学習環境を導入 東与賀町民の一員であることの実感	・生活科、総合的な学習の内容を再構築する。 ・「シチメンソウまつり」「東与賀町文化祭」等への積極的な参加をとおして、地域の一員であることを実感させる。 ・各種団体等と連携した地域連携活動の充実	・生活科、総合的な学習の時間を中心に、各教科で保護者や地域の人材活用を推進し児童との交流を深め、よりよい地域生活を考える。事後の児童アンケート満足度80%を目指す。 ・「シチメンソウまつり」全児童による灯籠づくり、ボランティアガイドの参加促進。 ・学級ごとに、校門周辺での朝の挨拶運動を地域の人や保護者と一緒に行う。	地域連携	
③						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	
教育活動	●心の教育	・道徳教育の改善 ・学級経営の充実 ・たてわり活動の充実 ・特別支援教育の充実 ・教育相談の充実	・「道徳の時間」の充実を図り、児童の道徳的価値の自覚を深めていく。 ・Q-Uテストを年1回実施し、学級経営に反映させる。 ・たてわりでの遊び・掃除・給食・学校行事を実施し、たてわり活動の充実を図る。 ・学習環境・授業のUD化を意識していく。 ・児童の困り感を早期発見し、対応する。	・各教科等との関連を意識した「道徳の時間」を実施する。 ・「ぼかぼかカード」の活用方法について見直しをし、児童一人一人の自己肯定感を高める。 ・学級経営研修会において、Q-Uテストの分析をもとにした経営案を策定し、不満足群を10%以下に減少させる。 ・たてわり活動を計画的に実施し、児童の達成感を85%以上とする。 ・視覚的な支援(ICT活用)を積極的に導入していく。 ・生活指導協議会(第4水曜)で、児童の実態把握と特別支援教育の手法の情報を共有する。 ・給食便りや親子料理教室・給食試食会等を通じて地域や家庭との連携と啓発を図る。 ・栄養職員と連携した食育の授業に取り組み、保護者に参観してもらったり参加型の授業を行ったりする。 ・保護者と連携して、自分の弁当を自分でつくる経験を積ませる。また、食育講演会を通して食に関する関心を高める。 ・養護教諭と担任が協力して、授業に取り組み、児童の健康意識を高める。 ・学期に1回、「よっ子オリンピック」を実施し、児童の体力向上を図る。	徳の部	
教育活動	●健康・体力づくり	・食に関する指導の充実 ・保健に関する指導の充実 ・体力向上に関する指導の充実	・学校給食を通して、食事のマナーや感謝の気持ちを育てる。 ・弁当作り(5・6年生)や食育講演会を通して、食の大切さや食に対する関心を高める。 ・自分の心と体に関心をもち、進んで健康、体力作りに取り組む児童を育てる。	・給食便りや親子料理教室・給食試食会等を通じて地域や家庭との連携と啓発を図る。 ・栄養職員と連携した食育の授業に取り組み、保護者に参観してもらったり参加型の授業を行ったりする。 ・保護者と連携して、自分の弁当を自分でつくる経験を積ませる。また、食育講演会を通して食に関する関心を高める。 ・養護教諭と担任が協力して、授業に取り組み、児童の健康意識を高める。 ・学期に1回、「よっ子オリンピック」を実施し、児童の体力向上を図る。	栄養職員・養護 教諭・体の部	
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめへの予防的指導の実施 ・いじめ防止対策委員会の活性化	・児童の実態把握のためアンケートをとり、いじめ問題等、早期発見を行う。 ・いじめ防止対策委員会を年2回開催し、対応等の確認をする。	・アンケートを7月に実施する。 ・「〇月の心」を月1回行い、子どもとの二者面談を実施する。 ・人権・同和教育の視点に立った「いじめ・命を考える日」の取組を工夫する。 ・全校集会や講演会をとおしいじめへの予防的指導を行う。 ・心のアンケートやいじめアンケートを通して子どもや保護者からの情報を得ながら、いじめ「0」を目指していく。講じた対策が適切であったか、対策委員会で検討し、次へ生かすようにする。	生徒指導担当	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	
特定課題	低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活習慣・学習習慣の育成 ・家庭との連携による学習環境の改善充実	・小学校低学年の指導に関する計画書が「おおむね達成」になる。 ・「家読・家学」アンケート実施において達成割合が80%以上になる。	・基本的な生活や学習の約束をわかりやすく常掲したり、がんばり表を作ったりして継続して細やかに指導する。 ・保護者との連携をさらに図っていくために、連絡帳や面談等において児童の様子について情報発信を行い、担任と保護者との指導の共有化を図る。 ・低学年での取り組みを3年生まで拡大する。	1・2年 指導教諭	

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目